

春近き日

小川未明

青空文庫

お母^{かあ}さんが、去^{きよ}年^{ねん}の暮^くれに、町^{まち}から買^かつてきてくださったお人^{にんぎよう}形^{がた}は、さびしい冬^{ふゆ}の間^{あいだ}、少^{しょう}女^{じよ}といっしよに、仲^{なか}よく遊^{あそ}びました。

それを、どうしたことが、このごろになつて、お人^{にんぎよう}形^{がた}は、しくしくと泣^ないて、お嬢^{じよう}さんに願^{ねが}つたのであります。

「どうか、私^{わたし}をお母^{かあ}さんのところへ帰^{かえ}してください。」と申^{もう}しました。

少^{しょう}女^{じよ}は、どうしていいかわかりませんでした。お人^{にんぎよう}形^{がた}のお母^{かあ}さんがどこにいるかということもわからなければ、せつかく仲^{なか}よく遊^{あそ}んだお人^{にんぎよう}形^{がた}に別^{わか}れることも悲^{かな}しかったからです。

「わたしは、お母さんに聞いてみます……。」と、少女は答えました。

すると、かわいらしいお人形は、目をまるくして、

「どうか、お嬢さま、そのことはだれにも話さないでくださいまし。」と、頼みました。

「おまえのお母さんは、どこにいらつしやるの？　それがわかれば、帰してあげてもいいわ。」と、少女は申しました。

お人形は、たいそう喜びました。

「毎朝、この窓のところへ、べにすずめがきます。あれに言づけてもらえば、お母さんは、だれかきつと私を迎えによこしてくれませう。どうかお嬢さま、私を明日の晩方、野原のところま

でつれていってくださいますし。」と、真まつ黒くろな目めで見み上げてねが
いました。

その晩ばんは、いい月夜つきよでした。もうじきに春はるのくることを思おもわせ
ました。

翌朝よくあさ、べにすずめが窓まどにきて鳴なきました。

晩方ばんがた、少女しょうじょは、お人形にんぎょうを抱だいて村むらはずれへきました。

まだ、遠とおくの山々やまやまには、雪ゆきが光ひかっていました。このとき、どこ
からともなく美うつくしい馬車ばしゃが前まえへきて止とまりました。お人形にんぎょうは、
その馬車ばしゃに乗のつて、お嬢じょうさまにお別わかれを申もうしました。やがて、黒くろ
い馬うまは、美うつくしい馬車ばしゃを引ひいて、あちらへ駆かけていってしまつたの
です。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 4」講談社

1977（昭和52）年2月10日第1刷発行

1977（昭和52）年C第2刷発行

底本の親本：「海から来た使ひ」岡村書店

1926（大正15）年7月

初出：「子供之友」

1926（大正15）年3月

※表題は底本では、「春《はる》近《ちか》き日《ひ》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：栗田美恵子

2019年2月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

春近き日

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>